大阪湾岸に生物多様性豊かな干潟や湿地を取り戻すための共同宣言

私たち環境保護団体は、陸域と海域をつなぐ沿岸部で、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せるというネイチャーポジティブの実現のために

1．残す　：大阪湾岸に現存する自然環境は保護エリアとし、その維持保全に努め、未来に伝える
2．創る　：すでに開発し劣化した湾岸部においては、遊休地や低利用地などを自然回復の候補地に選定し、早期に自然海浜・干潟や湿地環境を戻す造成に着手する
3．広げる　：海岸や海上の埋め立てを伴う事業ついては、生物多様性の回復を第一優先課題として、開発面積と同等以上の湿地や干潟の造成を行う

以上のことを、関係機関に働きかけるとともに、あらゆる機会に、ネイチャーポジティブの理念を広げ、行政・企業・NGO・民間団体などの組織や市民とともに、連携・協力の場を広げ、知恵を出し合って、大阪湾岸に生物多様性豊かな干潟や湿地をとり戻していくことを、宣言します。

2025年1月15日

公益社団法人 大阪自然環境保全協会
日本野鳥の会大阪支部
公益財団法人　日本野鳥の会
公益財団法人　日本自然保護協会
認定NPO法人　バードリサーチ
公益財団法人　世界自然保護基金（WWF）ジャパン

【2025年5月1日までにご賛同いただいた団体】

公益社団法人 生態系トラスト協会／公益財団法人 日本鳥類保護連盟／公益財団法人 公害地域再生センター（あおぞら財団）／一般社団法人 JELF（日本環境法律家連盟）／一般社団法人 水生生物保全協会／一般社団法人 コンサベーション・インターナショナル・ジャパン／認定NPO法人 生態工房／認定NPO法人 緑の地球ネットワーク／NPO法人 共生の森／NPO法人 AMネット／NPO法人 ラムサールネットワーク日本／NPO法人 バードレスキュー協会／NPO法人 日本国際湿地保全連合／堺野鳥の会／枚方野鳥の会／河内長野野鳥の会／高槻野鳥の会／吹田野鳥の会／鉢が峯の自然を守る会／信太の森FANクラブ／泉大津ハヤブササポート倶楽部／SDGｓ万博市民アクション／淀川水系イタセンパラ研究会／自然と本の会／なにわの片葉葦保存会／枚方いきもの調査会／大津川自然観察会／夢洲カジノを止める府民の会・高槻／ガーデンズ・アカデミー（以上大阪）／環瀬戸内海会議／全国ブラックバス防除市民ネットワーク（ノーバスネット）／バイオ ダイバーシティ インフォメーション ボックス／北海道湿地踏査団／新篠津ツルコケモモを守る会／いしかり海辺ファンクラブ（北海道）／仙台湾の水鳥を守る会・蒲生を守る会（宮城）／NPO地域づくり工房（長野）／たましま干潟と鳥の会（岡山）／ウェットランドフォーラム（福岡）／泡瀬干潟を守る連絡会（沖縄）／NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会／NACS-J 自然観察指導員兵庫連絡会／日本野鳥の会佐賀県支部／日本野鳥の会ひょうご／日本野鳥の会奈良支部／日本野鳥の会和歌山県支部／日本野鳥の会滋賀／日本野鳥の会京都支部／日本野鳥の会東京

＝引き続きご賛同いただける団体をお待ちしております＝

【みんなで守ろう！海わたる鳥（共同宣言解説版）】
編集　：公益社団法人　大阪自然環境保全協会
連絡先：06-6242-8720　office@nature.or.jp
発行　：2025年5月5日　NPO法人AMネット　1000部
【夢洲Photo Album＃7】
20225年度環境再生保全機構地球環境基金の助成で作成しています。助成名「SDGs万博市民アクション

2025 OSAKA BAY NATURE POSITIVE JOINT DECLARATION

みんなで守ろう！海わたる鳥

いのち輝くがテーマの万博のレガシーとして
大阪湾岸に、渡り鳥の立ち寄れる湿地を！

夢洲には、埋立て途上、偶然にできた自然環境に、希少な渡り鳥が多数渡来していました。
今後も野鳥が渡来できる場所を確保してほしいと願って、環境6団体で共同宣言を出しました。
右のQRコードから、解説動画がごらんいただけます。

みんなで守ろう！海わたる鳥

ネイチャーポジティブとは？

「自然と共生する社会」の達成に向けた2030年ミッションとして掲げられているネイチャーポジティブとは、自然を保護するだけでなく、社会・経済全体が生物多様性の保全に貢献するよう変革させ、自然を回復軌道に乗せていく考え方です（「生物多様性国家戦略2023-2030」）。

また、「昆明・モントリオール生物多様性枠組（GBF）」（2022年12月）では、ネイチャーポジティブ実現のための一つとして、2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする「30by30目標」を掲げています。わが国では国立公園や自然共生サイト制度を活用し、保護地域拡充に向けて努力しています

大阪府域の現状の保護エリア（条例等に基づく地域指定の実面積）の割合は、陸域で府域面積の約24.6 %です。しかし湾岸部においては、現在大阪府の海岸線全長の１%程度しか自然海岸がなく、生物多様性の損失を食い止め回復させるためには、相当思い切った取り組みが必須となります。

沿岸生態系を保全する意義

沿岸域の自然生態系を指標するシギ・チドリ類は、世界的に減少が指摘されており、日本に渡来する個体数も激減しています。その大きな要因の一つは生息地である干潟や湿地の消失と考えられます。渡りをする水鳥たちは、その生息環境を開発で奪われ、埋め立て途上の水辺などを代替地として命をつないできましたが、その環境は不安定です。

大阪湾岸は「東アジア・オーストラリア・フライウェイ」の重要な中継地です。渡り鳥の生息地の保全は、国際的にも大きな渡りのルートを維持し、アジア地域の生物多様性保全にもつながります。

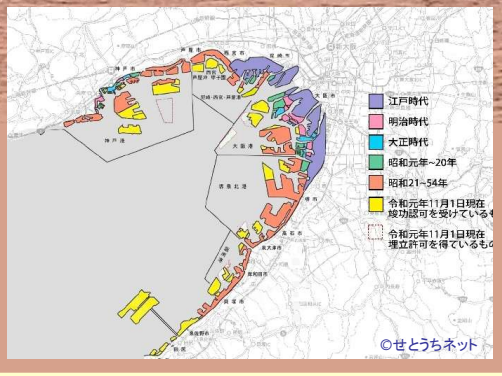
また、シギ・チドリ類を守ることは、その渡来地である湿地や干潟などの自然環境を守ることであり、それは生物多様性に富んだ地域の財産を守ることでもあります。海岸線の自然は風の道をつくり、ヒートアイランド化を軽減し、自然との触れ合いや環境教育の場としての役割も担い、人間にとっても貴重な場所を守ることにつながります。

大阪湾に干潟や湿地が必要な理由

大阪湾岸のもつポテンシャル

大阪湾は古くから「魚庭（なにわ）の海」と呼ばれたほど生物多様性に富み、私たちはその恩恵を受けてきました。そして、瀬戸内海の東端に位置する大阪湾は、長年シギやチドリなどの水鳥の渡りの中継地や越冬地となっていました。

「南港野鳥園」は、50年以上前、埋め立て中の湿地に多くのシギ・チドリ類が渡来していたことから、その場所を守ってほしいと願う市民が立ち上がって作られました。この野鳥園は渡り鳥のために作られた人工干潟として、全国的にも先駆的な事例のひとつとなっており、近接する夢洲とともに大阪府の「生物多様性ホットスポットAランク」に選定されています。



現在の危機的状況

2025年大阪・関西万博の開催地である夢洲は、20年以上にわたり、コアジサシやシギ・チドリ類など渡り鳥の大阪湾最大の渡来地となっていました。万博建設工事中の2023年5月から2024年9月にも、残されたわずかな湿地で、レッドデータブックに記載の鳥類51種を含む71種の鳥類が確認されています。しかしこの場所は、万博で「つながりの海」として利用された後、万博閉会後には大阪市によって完全に埋め立てられる計画です。

大規模な渡りのルートである大阪湾での渡来地の消失は、日本を通過するシギ・チドリ類の絶滅を加速させます。「いのち輝く未来社会」を目指しているはずの地元・大阪では、生物多様性の保全や維持についての配慮は全く図られないまま、渡り鳥たちはまた一つ貴重な生息地を失おうとしています。それは、私たちが生物多様性ホットスポットという貴重な財産を失うことも意味しており、これは、ネイチャーポジティブの理念に完全に逆行しています。

写真／ハマシギの群れ@夢洲　日本野鳥の会大阪支部提供